

病理診断部

■手島 伸一

■武田 宏太郎

■工藤 まどか

2015年の活動状況

病理診断部はルーチンの病理組織診断はもちろん、CPC、カンファランスほか病理に関する様々な活動を行っている。

①病理診断の内訳

病理組織診断は、臨床医が最終診断を決めるために非常に重要な検査であり、早期かつ正確な報告が病理診断部に求められている。2015年の実績は年間9,376件の組織診、11,126件の細胞診、170件の迅速診断、20件の剖検を行った。これは全国でも屈指の病理検体数である。病理診断部のスタッフは、4名の常勤臨床検査技師（うち2名は細胞検査士）、病理専門医（細胞診専門医）1名、病理後期研修医2名が在籍している。他に非常勤病理医3名、非常勤細胞検査士1名である。とくに検体数が通常より過剰な際には、検査科からの技師の応援を仰いでいる。優れた標本の作製と診断力の向上のために、病理専門医、臨床検査技師、細胞検査士の育成に努めている。

②2015年度の品質改善指標

2015年度の病理診断部の目標は外注率を減らすこととした。外注率を減らすことは、病理診断レベルの向上、報告までの期間の短縮、外注業者への受注費用の軽減などの大きな効果がもたらされる。2015年の年間の組織診断の外注率は12%、細胞診の外注率は60%であるが、現在（2016年8月）は、組織診断は10%、細胞診は0%の外注率である。組織診の外注率がやや横ばい状態であるが、低減に向けてのさら

なる努力が求められる。

③CPCの充実

2015年のCPCは10回行った。初期研修医に対し、剖検症例の肉眼所見や組織所見の読み方を指導し、初期研修医が自ら病理所見を発表できるように指導している。当院のCPCは回数、内容などからみて、全国的にも優れたものと考えており、さらに充実させるよう努めている。

④カンファランスの充実

病理が参加しているカンファランスは以下のとおりである。

- ・消化器病カンファランス：毎週火曜日
- ・乳腺病理カンファランス：毎月
- ・婦人科病理カンファランス：3か月毎
- ・血液・リンパ腫病理カンファランス：3か月毎
- ・呼吸器病理カンファランス：毎月
- ・CPC：毎月
- ・腎病理カンファランス（外部講師をまねいて）：年3回
- ・消化器病理カンファランス（外部講師をまねいて）：年3回

⑤初期研修医などへの病理の指導

初期研修医や後期研修医に対して短期間の病理ローテーションをうけている。2015年度は1名、1か月間の短期ローテーションがあった。それ以外にも臨床各科からの病理に関する問い合わせ、病理標本の写真撮影の指導など、病理全般に関し、広く協力や指導を行っている。

⑥2015年病理診断部の業績

(病理診断部が筆頭者のみ)

著書

1. 手島伸一：非浸潤性インプラントを繰り返す卵巣漿液性境界悪性腫瘍. 癌診療指針のための病理診断プラクティス. 婦人科腫瘍. (青笹克之, 本山悌一編), 中山書店, 2015, pp358-363.
2. 手島伸一(分担執筆)：細胞診ガイドライン1 婦人科・泌尿器 2015年版, 金原出版, 2015.

編集

1. 手島伸一：乳癌病理診断の進歩. 臨床検査 59(5), 2015.
2. 手島伸一、森谷卓也：卵巣腫瘍Ⅰ－病理の新しい考え方. 病理と臨床33(9), 2015.
3. 手島伸一、森谷卓也：卵巣腫瘍Ⅱ-病理診断の実際. 病理と臨床 33(10), 2015.

論文

1. 手島伸一, 森谷卓也：卵巣腫瘍の新WHO分類. 病理と臨床 33, 932-937, 2015.
2. 手島伸一：新WHO分類に沿った肉眼観察. 病理と臨床 33, 1058-1064, 2015

学会発表

1. 武田宏太郎, 手島伸一：左鼠径リンパ節転移から見つかり, 原発巣の診断に苦慮した左足底悪性黒色腫の1例. 神奈川県病理医会, 横浜, 2015, 1.
2. 岸宏久, 手島伸一, 他：DLBCLの既往があり, その後EBV陽性形質細胞腫瘍, 引き続きEBV陽性DLBCLが発生した1例. 日本病理学会総会, 名古屋, 2015, 4.

講演

1. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理—新WHO 分類の解説と批判—. 日本病理学会北海道地方会, 札幌, 2015, 9.
2. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理. 21世紀に入って変貌し

た疾患概念. 日本病理学会秋季総会, 東京, 2015, 11.

3. 手島伸一：卵巣腫瘍の病理. 徳洲会病理研修会, 名古屋, 2015, 11.
-